

第2回「博報日本語海外研究者招へいプログラム」

招へい研究者決定

財団法人博報児童教育振興会（理事長 近藤道生）は、第2回「博報日本語海外研究者招へいプログラム」の招へい者を決定し、2月15日付で発表しました。

- ・ 厳正な選考の結果、今年度はアメリカ、エジプト、キルギス共和国、ベトナム各国より計5名の研究者が招へい研究者として選出されました。（別紙参照）
- ・ 研究は2007年10月～2008年9月まで、独立行政法人国立国語研究所にて行われます。

【上記プログラムの内容】

当財団は1970年、児童教育を振興する目的で文部省（当時）認可の財団法人として設立されました。以来、「ことば」「文化」の領域を中心に、小・中学生を対象とする教育の実践において、優れた実績を上げられた団体と個人に「博報賞」を贈呈し、豊かな人間形成に関わる活動を支援してまいりました。

この活動を踏まえ、日本語、日本語教育、そして国語教育の深化と進展へのさらなる寄与を目的に、2006年度より新事業として、（独）国立国語研究所の協力を得て「博報日本語海外研究者招へいプログラム」を開始しております。

この事業は、海外において日本語、および日本語教育の領域で優れた研究業績を有し、且つ指導的立場にある研究者を招いて研究・調査活動の機会を提供することで、日本における当該領域の研究進展と充実に役立てる事を意図したものです。

<この件に関するお問合せ>

〒101-0054 千代田区神田錦町3-22

財団法人 博報児童教育振興会

TEL 03(3233)6788

FAX 03(3233)6325

Eメール hakuho.foundation@hakuho.co.jp

ホームページ <http://www.hakuho.co.jp/foundation/>

第2回博報日本語海外研究者招へいプログラム 招へい者一覧

研究タイトル	招へい者	国籍
バイリンガル児を育てる ー日本における外国人幼児・児童・生徒への 日本語教育のあり方 再考ー	桶谷 仁美 (オケタニ ヒトミ) イースタン・ミシガン大学 外国語・バイリンガル教育学部 準教授	日本
非漢字文化圏の日本語学習者を対象とした 漢字教育法の開発 ー漢字の書記素と構成要素の分析に基づく 最適な漢字学習配列および連想を手がかりとした 漢字記憶法の開発とその利用についてー	Vorobieva Galina (ヴォロビヨワ ガリーナ) キルギス共和国 日本人材開発センター 日本語講座主任、日本語教師	キルギス共和国
「日本研究者のための日本語」初・中級会話教材作成	NGO HUONG LAN (ゴ フォン ラン) ベトナム社会科学院附属 東北アジア研究院 日本研究センター 副所長	ベトナム
機能語を中心に日本語とアラビア語の対照研究 ーアラビア語話者のための 日本語表現文型集の作成に向けてー	Walid Farouk Ibrahim (ワリード ファルーク イブラヒム) カイロ大学 文学部日本語日本文学科 専任講師	エジプト
日本語学習のための効果的なアセスメントの データベースとその汎用システムの構築	Yasu-Hiko Tohsaku (ヤスヒコ トウサク) カリフォルニア大学 サン・ディエゴ校国際関係 ・環太平洋研究大学院 Professor, Director of Language Program	アメリカ